

## コラム

念仏のうた

### 正信偈〔しょうしんげ〕

きみょうむりょうじゆによらい なむふかしぎこう  
「帰命無量寿如来 南無不可思議光」から始まる「正信偈」は、私たち真宗門徒にとって、最も身近なものといえます。正式には「正信念しょうしんねんぶつ偈げ」といい、親鸞聖人の著作である『顕浄土真けんじょうしん実教行証文類じつぎょうじょうもんるい きょうぎょうしんしやう（教行信証）』の中に書かれている漢文形式の偈うたです。

お釈迦さまがお説きになった阿弥陀如来の教えと、その教えを受け伝えた七人の高僧のお仕事を讃えています。

「正信偈」を朝夕のお勤めに用いるように定められたのは本願寺八代の蓮如上人です。それ以降、私たちにとって「正信偈」が身近なものとなりました。

月忌（月参り）やご法事、聞法会や研修会など触れる機会が多いと思います。この先も教えを伝えていくために、ぜひ声に出して一緒にお勤めしましょう。

表紙イラスト「墨袈裟」…  
僧侶が普段多く用いる黒色の袈裟



今月の門徒さん

「こころが問われる法要」

喜多 繁子さん（長崎組 長崎教会）

毎月9日の「非核非戦定例法要」に長崎教会へお参りします。そのたび、原爆によって命を失われた方々から「非核非戦-共に生きよ-」と願われていることの意味を考え、私たち人間の知恵の闇を見せつけられるように感じます。

人として生まれ、聞き難い仏法にご縁をいただきながら、身近な家族ともなかなか共に生きることができない。そんな私を悲しんでくださっている仏さまのお心に触れ、ようやく身近な人とこころが通じ合える世界が開かれる。そんな気がしています。



私はよく「自己中」になり、反省はしますが「ゴメン」がなかなかできません。通じ合えるきっかけはここにあるのでしょうか。

ごほんぞん

# ご本尊

アフターケア通信

# 8

月号

## 非戦の誓い

仏教と平和

kyushu-kyoku

### 九州教区



発行：真宗大谷派 九州教区教化委員会

〒830-0038 福岡県久留米市西町 540-1 TEL.0942-32-3056

# 非戦の誓い



## 真宗大谷派と戦争

私たち真宗大谷派は過去の戦争を「聖戦」と称し、青年たちを死地に赴かせ、また、当時戦争に反対した僧侶を宗派から追放した歴史を持っています。

この過去の歴史に学び、宗派の最高議決機関である宗会（全国の僧侶と門徒の代表で構成）において、1995年（戦後50年）に「不戦決議」。さらに、20年後の2015年には、戦争を許さない、豊かで平

和な国際社会の建設にむけてすべての人々と歩みをとともにすることを誓う「非戦決議」が全会一致で採択されました。また、真宗本廟（京都・東本願寺）において毎年「春の法要」の際に『全戦没者追弔法要』を行っています。

「非戦決議」全文については東本願寺HPをご覧ください。



## 「非核非戦

### ―共に生きよ―

九州でも宗派として戦争の歴史に向き合う動きがあります。代表的なものとして、真宗大谷派長崎教会には「非核非戦」の文字が刻まれた石碑が建てられています。この石碑の下には1945年8月9日、長崎に投下された原子爆弾によって亡くなられた一万体とも二

万体ともいわれるお骨が収められています。これは身元もわからず、引き取り手もない、街に置き去りにされたご遺体を、当時の人たちが拾い上げここに収めたものです。現在、毎月9日に原爆や戦争などをテーマとして、有縁のご門徒が参拝され、「非核非戦定例法要」が勤められています。法要を通して、非核非戦の願いが人間の問題として、九州から全国に広がるよう願っています。

## 「非」戦ということ

私たちはこの地上で、さまざまないのちと共に生きています。しかし、私たちは人間が世界の中心であるかのように思い、すべてが思い通りになると錯覚してはいないでしょうか。

戦争とは私たちの「心の闇（無明）」によって引き起こされるもので、その犠牲となるのは人間だ

けでなく、あらゆるいのちです。「全戦没者」という表現の意味はここにあります。「不戦」ではなく、あえて「非戦」と宣言されたのは、「戦」を自分の外に見るのではありません。「共に生きよ」「争いあうな」と仏さまが人間に問いかけている。そのことを見出すためです。



▲被爆体験を語る講師の森田博満さん(2020年)



▲毎年8月9日に行われる「非核非戦法要」



▲非核非戦の碑(真宗大谷派 長崎教会)